

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2002-056108

(43)Date of publication of application : 20.02.2002

(51)Int.Cl.

G06F 17/60

(21)Application number : 2000-244808

(71)Applicant : OSAKA DENSHI KEISAN KK

(22)Date of filing : 11.08.2000

(72)Inventor : MATSUMOTO YASUYUKI
KATSUNE HIDEKAZU
TOMAMOTO NAOMI
FUKUI RIE

(54) EXAMINATION OPERATION PROCESSING SYSTEM

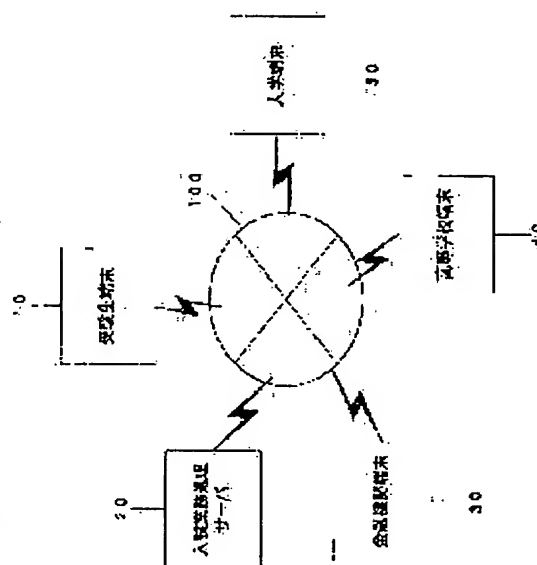
(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide an examination operation processing system which can unify and manage examination-related information.

SOLUTION: An examinee terminal 10 that an examinee has, an entrance examination operation processing server 20 at an entrance examination operation processing center, a terminal 30 at a financial institution, a terminal 40 at a high school, and a terminal 50 at a university are connected through the Internet 100. The examinee follows an application procedure on the server 20 through the examinee terminal 10 according to an application format and then application charge processing is also carried out through the financial

institution terminal 30. The server 20 after putting data on examinees together requests the examinee's high school to send investigation reports. Investigation report data are ciphered and sent from the high-school terminal 40 to the server 20. The server 20 sends examinee lists of respective universities to university

terminals 50 of the universities together with necessary examination data. The universities can obtain desired examinee data by the universities from the server 20 through the university terminals 50.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision
of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's
decision of rejection]

[Date of extinction of right]

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号
特開2002-56108
(P2002-56108A)

(43)公開日 平成14年2月20日 (2002.2.20)

(51)Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	マークシート (参考)
G 0 6 F 17/60	1 2 8	G 0 6 F 17/60	1 2 8 5 B 0 4 9
	3 1 4		3 1 4

審査請求 未請求 請求項の数8 O L (全 12 頁)

(21)出願番号 特願2000-244808(P2000-244808)

(22)出願日 平成12年8月11日 (2000.8.11)

(71)出願人 500376346
大阪電子計算株式会社
大阪市中央区北浜二丁目4番6号

(72)発明者 松本 保之
大阪市中央区北浜二丁目3番9号 大阪電子計算株式会社内

(72)発明者 勝根 秀和
大阪市中央区北浜二丁目3番9号 大阪電子計算株式会社内

(74)代理人 100064746
弁理士 深見 久郎 (外2名)

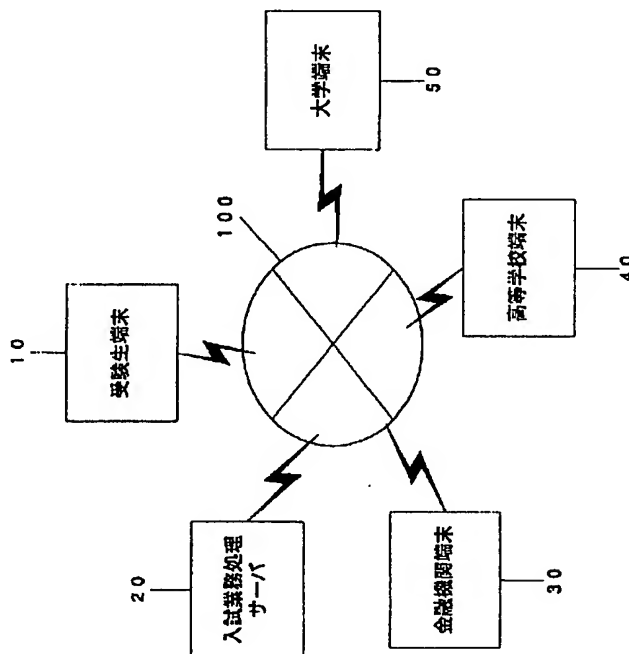
最終頁に続く

(54)【発明の名称】 受験業務処理システム

(57)【要約】

【課題】 受験関連の情報を一元管理できる受験業務処理システムを提供する。

【解決手段】 受験生の有する受験生端末10と、入試業務処理センターの入試業務処理サーバ20と、金融機関の端末30と、高等学校の端末40と、大学の端末50とが相互にインターネット100を介して接続されている。受験生が受験生端末10を介してサーバ20で出願フォーマットに従って出願手続を行なうと、金融機関端末30を介した出願料金処理もあわせて行なわれる。サーバ20では、複数の受験生のデータをまとめた後、受験生の出身高等学校に対して調査書の送信を依頼する。高等学校端末40からは調査書データが暗号化処理されてサーバ20に送られる。一方サーバ20からは各大学の受験志願者リストを必要な受験データとともに大学の大学端末50へ送信する。一方、大学は大学端末50を介してサーバ20から大学ごとの所望の受験生データを得ることができる。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 通信ネットワークを介して接続された受験生の端末と、前記受験生の調査書を有する学校に設けられる学校端末と、

前記受験生が受験するために必要な受験書類を受取る受付端末とを含み、

前記受験生の端末は、前記調査書を除く前記出願に必要な書類を前記ネットワークを介して前記受付端末に送信し、

前記受付端末は、前記受験生の端末から送信された受験書類に基づいて前記学校端末に前記受験生の調査書を要求し、前記学校端末から前記受験生の調査書を入手する、受験業務処理システム。

【請求項2】 通信ネットワークを介して接続された大学受験生の端末と、

前記受験生が受験するために必要な大学受験書類を受取る受付端末とを含み、

前記受験生の端末は、複数の前記大学の出願に必要な書類を前記ネットワークを介して前記受付端末に送信し、前記受付端末は、前記受験生の端末から送信された複数の大学受験書類を受け付けて、前記複数の大学の各々に対して必要な受験手続きを行う、受験業務処理システム。

【請求項3】 前記受付端末は、前記大学の広報資料を有し、前記受験生は前記広報資料にアクセス可能である、請求項2に記載の受験業務処理システム。

【請求項4】 通信ネットワークを介して接続された大学受験生の端末と、

受験生が受験する大学に設けられ、前記大学の受験担当者がアクセスする大学端末と、前記受験生が受験するために必要な大学受験書類を処理する受付端末とを含み、前記受付端末は前記大学受験書類を処理することによって得られた大学入学試験における管理データを作成して保存し、

前記大学の受験担当者は前記大学端末から前記受付端末を介して前記管理データにアクセス可能な、受験業務処理システム。

【請求項5】 前記管理データは前記大学入試に伴う統計データを含む、請求項4に記載の受験業務処理システム。

【請求項6】 通信ネットワークを介して接続された大学受験生の端末と、

受験生が受験する大学に設けられ、前記大学の担当者がアクセスする大学端末と、前記受験生および前記大学の担当者がともにアクセス可能な受付端末とを含み、前記受付端末は前記受験生端末および前記大学端末と相互に通信が可能である、受験業務処理システム。

【請求項7】 ネットワークを介して相互に接続された受験生の端末と、前記受験生が受験するために必要な受験書類を受取る受付端末とを含み、

前記受付端末は、前記受験生から所定の受験書類を受け取ったときは、その旨の通知とともに、固有の暗証番号を前記受験生に送信し、

前記受験生は前記受験生の端末から前記暗証番号を用いて前記受付端末へアクセスし、前記受付端末から所望の情報を入手可能な、受験業務処理システム。

【請求項8】 前記所望の情報は志願票処理状況および個人出願状況を含む、請求項7に記載の受験業務処理システム。

【発明の詳細な説明】**【0001】**

【発明の属する技術分野】この発明は資格試験、大学入学試験等の受験用書類をネットワークを介して必要な箇所に送受信できる受験業務処理システムに関する。

【0002】

【従来の技術】この発明に興味のある入学試験に関する業務処理システムがたとえば特開平8-212263号公報に開示されている。同公報によれば、ネットワークを介して複数の端末から受験願書を電子出願し、金融機関において書類費用の入金を確認すると、顔写真入りの受験票を作成するシステムが開示されている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】従来の試験関連業務処理システムはたとえば上記のように構成されていた。

【0004】顔写真の入った受験票等はネットワークを介して入力されたデータに基づいて作成されていたが、受験に必要な重要書類である、受験生の高校における成績を証明する調査書等については未対応であり、別途郵送等が必要であった。

【0005】また、複数の大学による利用等については特に開示されていなかった。一方で、近年ネットワークがユーザ等のより身近なものになり、ネットワークを介してより受験に必要な業務処理を簡便化したいというニーズが出てきている。

【0006】この発明は上記のような問題点やニーズに対応するためになされたもので、大学入試等の受験生が1つの手続を行えばそれによって複数の大学等の受験手続が可能になる受験業務処理システムを提供することを目的とする。

【0007】また、この発明の他の目的は、大学の入試担当者の手間を省くことができる受験業務処理システムを提供することを目的とする。

【0008】この発明のさらに他の目的は、受験生が容易に複数の大学等の受験校の入試情報を容易に入手することができる受験業務処理システムを提供することを目的とする。

【0009】

【課題を解決するための手段】この発明にかかる受験業務処理システムは、通信ネットワークを介して接続された受験生の端末と、受験生の調査書を有する学校に設け

られる学校端末と、受験生が受験するために必要な受験書類を受取る受付端末とを含み、受験生の端末は、調査書を除く出願に必要な書類をネットワークを介して受付端末に送信し、受付端末は、受験生の端末から送信された受験書類に基づいて学校端末に受験生の調査書を要求し、学校端末から受験生の調査書を入手する。

【0010】受験生から送信された受験書類に基づいて学校に受験生の調査書を要求し、学校からネットワークを介して受験生の調査書を入手するため、受験に必要なすべての処理をネットワークを介して行うことができる。

【0011】この発明の他の局面においては、受験業務処理システムは通信ネットワークを介して接続された大学受験生の端末と、受験生が受験するために必要な大学受験書類を受取る受付端末とを含み、受験生の端末は、複数の大学の出願に必要な書類を前記ネットワークを介して受付端末に送信し、受付端末は、受験生の端末から送信された複数の大学受験書類を受け付けて、複数の大学の各々に対して必要な受験手続きを行う。

【0012】好ましくは、受付端末は、大学の広報資料を有し、受験生は広報資料にアクセス可能である。その結果、受験生は受付端末へアクセスすれば、大学の受験手続きができるだけでなく、その前段階の情報も得ることができる。

【0013】さらに好ましくは、受験業務処理システムは通信ネットワークを介して接続された大学受験生の端末と、受験生が受験する大学に設けられ、大学の受験担当者がアクセスする大学端末と、受験生が受験するために必要な大学受験書類を処理する受付端末とを含み、受付端末は大学受験書類を処理することによって得られた大学入学試験における管理データを作成して保存し、大学の受験担当者は大学端末から前記受付端末を介して管理データにアクセス可能である。

【0014】この発明のさらに他の局面においては、受験業務処理システムは、通信ネットワークを介して接続された大学受験生の端末と、受験生が受験する大学に設けられ、大学の担当者がアクセスする大学端末と、受験生および大学の担当者がともにアクセス可能な受付端末とを含み、受付端末は受験生端末および大学端末と相互に通信が可能である。

【0015】その結果、受付端末は受験生からの大学受験に関する質問を受け付けるとともに、質問を大学の担当者に問い合わせ、その回答を受付端末上で表示したりすることができる。

【0016】この発明のさらに他の局面においては、受験業務処理システムは、ネットワークを介して相互に接続された受験生の端末と、受験生が受験するために必要な受験書類を受取る受付端末とを含み、受付端末は、受験生から所定の受験書類を受け取ったときは、その旨の通知とともに、固有の暗証番号を受験生に送信し、受験

生は受験生の端末から暗証番号を用いて受付端末へアクセスし、受付端末から所望の情報を入手可能である。

【0017】ここで、所望の情報は志願票処理状況であってもよいし、個人出願状況であってもよい。

【0018】

【発明の実施の形態】以下この発明の実施の形態を図面を参照して説明する。

【0019】図1はこの発明に係る受験業務処理システムの一例としての入試業務処理システムの全体構成を示すブロック図である。

【0020】図1を参照して、たとえばインターネットのようなネットワーク100を介して受験生の有する受験生端末10と、受験関係の業務処理を一括して行なう入試業務処理センターの入試業務処理サーバ20と、受験料等の処理を行なう金融機関の端末である金融機関端末30と、たとえば受験生が高校生の場合にはその高校生の出身校である高等学校に設けられた高等学校端末40と、受験生の志望大学に設けられた大学端末50とが相互に接続されている。

【0021】図2は受験生端末10の要部の構成を示すブロック図である。受験生端末10は端末装置全体を制御するCPU11と、CRTや液晶ディスプレイのような表示装置13と、ハードディスク等の記憶装置14と、キーボード、マウス、スキャナ等を含む入力装置15と、プリンタ等の出力装置16とネットワークと端末10とを接続するためのモデム17とを含む。これら装置は相互にインターフェイス12を介してCPU11と接続されている。

【0022】なお、金融機関端末30や、高等学校端末40や、大学端末50等も少なくとも同様の構成を有しているものとする。

【0023】図3は入試業務処理センターの有するシステム内容を示す模式図である。図3を参照して、入試業務処理センターは、ネットワーク100に接続された入試業務処理サーバ20と、入試業務処理サーバ20に対してファイアウォール21を介して接続されたデータベース/アプリケーションサーバ22と、データベース/アプリケーションサーバ22に接続されたホストコンピュータ23とを含む。

【0024】データベース/アプリケーションサーバ22には、受験生の受験願書等を含む志願データや、受験生の顔写真等の入った写真データや、受験料等の検定料データと、調査書等の資格確認データと、システム全体のセキュリティを確保するためのセキュリティシステム等を有し、また管理している。

【0025】次にこのシステムの具体的な処理について説明する。図4は受験生が行なう受験生出願処理手順を示すフローチャートである。図4を参照して、受験生における出願処理においては、まず入試情報を参照する（ステップS11、以下ステップを略す）。

【0026】ここで、入試情報参照処理においては、入試業務処理センターの「入試業務処理システム」にアクセスし、所望の大学の要項や、学部、学科の案内やその他入試に関する情報を参照する。

【0027】受験生は、志願票フォーマットを参照して、受験に必要な出願情報を入力し（S12）、出願情報の確認を行なう（S13）。

【0028】ここで、受験料の支払いについては、クレジットカードや、プリペイドカードやコンビニエンスストア（以下、「コンビニ」と省略する）における入金決済または銀行振込等を用いてもよい。

【0029】クレジットカードで決済を行なう場合には、クレジットカードの番号を用意し、必要なデータを受験生端末10における入力装置15を用いて入力する。プリペイドカードで決済する場合は、予めコンビニ等でプリペイドカードを購入しておき、その番号を受験生端末10における入力装置15を用いて入力する。

【0030】コンビニまたは銀行において入金を行なう場合は、出力装置16より振込用紙を出力して入金を行ない、その入金結果を示すデータをスキャナで読取ってデータ化して送信してもよい。

【0031】次に図4のS12で示した出願情報入力処理について説明する。図5は出願情報入力処理の処理手順を示すフローチャートである。図5を参照して、まずデータの暗号化を行なう（S21）。次いで受験生の出願データの登録が新規かどうかを判断する（S22）。新規であれば（S22でYES）、所定のフォーマットで個人情報を入力する（S23）。

【0032】新規登録でないときは（S22でNO）、識別（ID）番号およびパスワードを入力する（S24）。

【0033】次いで出願情報を所定のフォーマットに従って入力し（S25）、個人・出願情報を送信する（S26）。

【0034】なお、フォーマット入力時等において随時エラー確認を行なう。次に入試業務処理センターにおける処理について説明する。図6は入試業務処理センターにおける処理内容を示すフローチャートである。図6を参照して、まず受験生からの出願データの受付を行なう（S31）。次いで入試処理を行ない（S32）、同時に広報サービス処理も行なう（S33）。

【0035】次に図6のS31で示した「出願データ受付処理」について説明する。図7は図6のS31で示した出願データ受付処理の処理内容を示すフローチャートである。図7を参照して、出願データ受付処理においては、まず送られてきたデータの復号化処理を行なう（S41）。この復号化処理は次のようにして行う。

【0036】受験生からSSLの接続要求（ホームページの出願リンクをクリックした状態）があると、入試業務処理センターが認証局CAにより署名された公開鍵を

学生に渡す。受験生がCAの公開鍵を使って入試業務処理センターのデジタル署名を確認する。これはブラウザが自動的に行なう。

【0037】すると学生は入試業務処理センターの公開鍵を得ることができる（ブラウザが自動的に行なう）。学生は「鍵A」を生成し、入試業務処理センターの公開鍵で暗号化して入試業務処理センターにデータを送信する（ブラウザが自動的に行なう）。入試業務処理センターはそれを入試業務処理センターの秘密鍵で復号する。すると、入試業務処理センター側も「鍵A」を持つことができ、学生と入試業務処理センター両方が1つの鍵「鍵A」を持つことができる。双方はこの鍵を使って暗号化通信を行なう。すなわち、学生が特別な準備することなく暗号化通信ができる。

【0038】次いでID番号およびパスワードの認証を行なう（S42）。ID番号およびパスワードを持っていないときは（S42で無）、個人情報を受信し、ID番号およびパスワードを発行する（S44、S45）。受験生が個人データを登録することにより、個人IDおよびパスワードが与えられる。

【0039】ID番号およびパスワードが確認できたときは（S42で有・OK）、要求された個人情報を送信する（S43）。

【0040】ID番号およびパスワードともに確認できなかったとき（S42で有・NG）はエラー処理を行なう（S50）。

【0041】S43で個人情報を送信したときおよびS45でID番号およびパスワードを発行したときは、出願情報の受信を行なう（S46）。次いで、個人・出願情報確認を行なう（S47）。受験生を受験大学・学部及び学科名・受験日・受験科目に論理的な入力ミスがないかの確認を行ない、ミスがあればエラー処理を行なう（S47でNG、S50）。

【0042】個人・出願情報確認にミスがなければ（S47でOK）、出願料金確認を行なう（S48）。具体的には、クレジットカード処理やプリペイドカード決済の確認処理を行ない、確認ができなければ、エラー処理を行なう（S48でNG、S50）。出願料金確認が完了すると（S48でOK）、出願データの蓄積を行なう（S49）。受験データの蓄積においては、得られた受験生データを所定のデータベースに登録する。

【0043】次に、図6のS32で示した入試処理について説明する。図8を参照して、入試処理においては、まず調査書処理を行なう（S51）。次いで確定した志願者データを基に必要な資料を作成する志願処理（S52）、合否結果を基に合格者名簿等を作成する合格処理（S53）、入学手続きを行なった受験生のデータを基に手続き者名簿等の資料を作成する手続き処理（S54）、実際に入学した人のデータに基づき入学者統計等の資料を作成する入学処理（S55）および試験結果統

計資料を作成する統計処理（S56）を行なう。

【0044】次に調査書処理について説明する。図9は図8のS51で示した調査書処理の内容を示すフローチャートである。

【0045】調査書処理においては、まず受験生データファイルを作成する（S61）。具体的には受験生からの受験願書に記載されたデータをもとに受験する大学、その学部等を記録したデータファイルを作成する。

【0046】次いで高校別の調査書要求リストを作成し、高校へ調査書を要求する（S62～S63）。

【0047】なお、ここで、調査書は後に説明する暗号化処理によって暗号化されているため、これを復号処理し（S64）、調査書データを各大学別に再編成する（S65）。

【0048】図10は図6のS33で示した広報サービスにおける処理内容を示すフローチャートである。図10を参照して、広報サービスにおいては、まず大学情報問合せ処理を行ない（S71）、入試情報を提供し（S72）、大学別データ管理処理を行なう（S73）。

【0049】入試情報の提供としては、各大学の入試要項、入試ガイド、出願速報、入試相談会・説明会・オープンキャンパスの案内、新着情報・トピックスのお知らせを行なってもよい。また、Q&A質疑応答サービスや、掲示板・資料請求といった情報を与えてもよい。掲示板においては、受験生（OB）・大学教職員・高等学校教職員間で、コミュニケーションを取ることができるようにしてもよい。また、個人登録時に希望する資料にチェックを付け登録することにより、希望する情報は常にメールで送ってもらうことができるようにしてもよい。具体的には、新着情報・トピックスのお知らせとか、入試相談会・説明会・オープンキャンパスの案内や、出願者数速報や出願後の処理状況、合格発表・合否通知メール、次回試験日の案内等が送付される。なお、この次回試験日の案内等については、試験の不合格者に対して自動的に送られるようにしてもよい。

【0050】個人IDやパスワードによって、個人のページの保有やセキュリティゾーンにあるホームページの閲覧を可能となるようにしてもよい。また、大学別データ管理処理（S73）については、図8の入試処理の各データを大学別に管理し、提供できるようにしてもよい。

【0051】一方、高等学校へのサービスとしては、試験終了後即座に、各高等学校に受験生の成績通知をまとめて配信する。なお、広報サービスとしては、上記実施の形態に限らず、学生支援センターや、過去の試験問題や傾向等の表示を行なってもよい。

【0052】図11は図10のS71で示した受験生からの問合せ処理のうちの大学情報問合せ処理の内容を示すフローチャートである。

【0053】図11を参照して、大学情報問合せ処理に

おいては、まず日頃から大学情報を蓄積しておく（S81）。この場合、所望の大学の検索が容易に行なわれるものとし、各大学別の案内内容も表示されるものとする。具体的には、入試要項として募集人員、試験日や試験科目が表示され、入試ガイド・結果として志願・合格者数、競争率、合格ラインおよび合格率が表示される。また各大学ごとの出願者数速報等を行なってもよい。

【0054】次いで受験生からの質問があれば（S82）、蓄積された大学情報に回答があればそれを自動的に回答する（S83でYES、S86、S87）。蓄積された大学情報の中に情報がないときは（S83でNO）、該当する大学への問合せを行ない（S84）、その回答入手後（S85）、大学情報として蓄積する（S81）。

【0055】すなわち、受験生からの質問を入試業務処理センターのデータベース／アプリケーションサーバ22に蓄積し、各大学へ配信したり、各大学からの返答もまた入試業務処理センターのデータベース／アプリケーションサーバ22に蓄積し、質問のあった受験生へ返信する。このようにデータを蓄積することにより、既にあった質問に対しては入試業務処理センターより受験生に返信することができる。

【0056】このように、入試業務処理センターにおいて集中管理を行なうことにより、受験生は1つの質問を一度に複数大学に投げかけることもできる。

【0057】また、大学情報の請求においては、受験生・高等学校からの資料請求データを一括管理し、各大学へ配信してもよい。

【0058】図12は高校における、受験生の調査書データを準備する処理の処理手順を示す図である。図12を参照して、入試業務処理システムから調査書データが必要である旨の連絡を受けたときは、まず受験生の調査書データを準備する（S91）。受験生の調査書データを暗号化し（S92）、入試業務処理センターへ送信する（S93）。

【0059】図13は大学におけるデータ管理処理の処理内容を示すフローチャートである。図13を参照し、まず暗号化処理を行なう（S101）。次いでID番号およびパスワードの入力を行ない認証処理を行なう（S103）。

【0060】認証が得られたときは（S103でOK）、データ受信かまたはホームページ更新処理かのいずれかの処理を行なう（S104、S107）。データ受信の場合は、まず各種データを受信し（S104）、それを復号化し（S105）、各種帳票を作成する（S106）。

【0061】入試業務処理センターのサーバに全大学の入試データを保有するので、各大学の端末から専用のIDおよびパスワードを使って入試業務処理センターのサーバにある自大学の入試データを検索・加工・帳票出力

することができる。

【0062】その結果、携帯パソコン等を利用すれば、大学外にて入試結果の説明時の資料を持ち出す必要がなくなる。

【0063】ホームページ処理の場合はホームページの更新処理を行なう（S107）。ホームページにおいては、受験生などに広報したい情報やトピックスなども大学の端末より操作すれば、即座に更新、ホームページへ反映されるものとする。また、受験生との直接対話（Q & A 質疑応答サービス）も可能としてもよい。次に入試業務処理センター側における入試業務処理サーバ20における表示装置13の画面表示例について説明する。図14は入試業務処理サーバ20の表示装置13における画面表示例を示す図である。（A）はアクセスした当初の表示例である。（A）において「インターネット出願」を選択した場合の画面表示例が（B）である。

（B）で新規登録を選択した場合、新規登録者は個人情報を入力する画面例（C）に、一方既に登録済の受験生に対してはID番号・パスワードの入力を促す画面例（D）へと遷移する。

【0064】（E）は、（C）で入力したもしくは（D）でID番号・パスワードが認証された受験生の個人情報を確認する画面例である。

【0065】また、（A）で「大学入試広報」を選択した場合の画面表示例（F）において大学検索を行ない、特定した大学の情報参照画面例（G）で選択して出願を行なうことも可能である。

【0066】次に図14の（E）で示した画面例からさらなる遷移画面例について図15を参照して説明する。図15（A）は出願大学を特定する画面例である。図14の（F）において検索した大学については、ここで既に特定しておくことも可能である。図15（A）で大学を特定し、（B）において受験生が特定した大学に対して所望の学部・学科の選択が可能になり、受験科目や受験地等の選択も可能になる。（C）は（B）で選択した出願情報の確認画面例である。次に（D）で受験料の支払方法を選択し、（E）で写真の提出方法を選択する。全ての情報の入力を確認し、受付完了画面例（F）を表示する。また、振込用紙・写真貼付票等の出力が可能であり、個人・出願情報の確認をプリンター等で出力できるようにしてもよい。

【0067】なお、上記実施の形態においては、受験生端末としてパソコンを利用した場合について説明したが、これに限らず、ファクシミリ、携帯電話、携帯情報端末等から所望の情報の入手が行なわれるようにしてもよい。こうすれば、時間・場所にとらわれず、いち早く所望の情報を入手することが可能になる。

【0068】上記実施の形態においては、大学受験生の

出願を主とした例について説明したが、これに限らず、他の資格試験にこのシステムが適用されてもよい。

【0069】上記実施の形態においては、ネットワークとしてインターネットを利用した場合について説明したが、これに限らず、一般の公衆回線や、閉じた専用の回線であってもよい。

【0070】今回開示された実施の形態はすべての点で例示であって制限的なものではないと考えられるべきである。本発明の範囲は上記した説明ではなくて特許請求の範囲によって示され、特許請求の範囲と均等の意味および範囲内でのすべての変更が含まれることが意図される。

【図面の簡単な説明】

【図1】 この発明に係る入試業務処理システムの全体構成を示すブロック図である。

【図2】 受験生端末の詳細を示すブロック図である。

【図3】 入試業務処理センターの全体構成を示す模式図である。

【図4】 受験生における出願処理内容を示すフローチャートである。

【図5】 出願情報入力処理の内容を示すフローチャートである。

【図6】 入試業務処理センターの作業内容を示すフローチャートである。

【図7】 出願データ受付処理の処理内容を示すフローチャートである。

【図8】 入試処理の作業内容を示すフローチャートである。

【図9】 調査書処理の処理内容を示すフローチャートである。

【図10】 広報サービスの処理内容を示すフローチャートである。

【図11】 大学情報問合せ処理の内容を示すフローチャートである。

【図12】 高等学校における処理内容を示すフローチャートである。

【図13】 大学における端末の処理内容を示すフローチャートである。

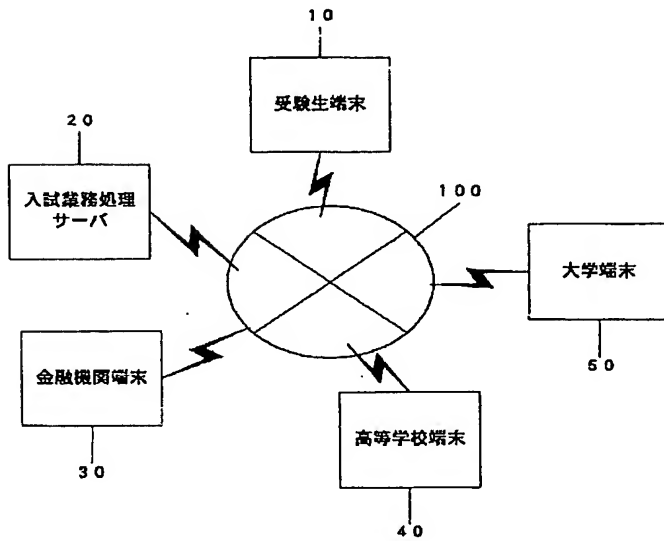
【図14】 センター端末における画面遷移例を示す図である。

【図15】 センター端末における画面遷移例を示す図である。

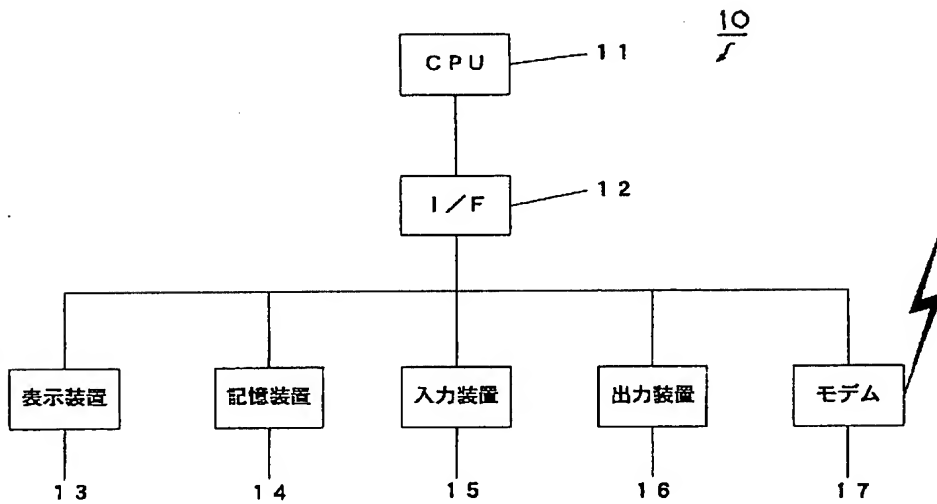
【符号の説明】

10 受験生、20 入試業務処理サーバ、30 金融機関端末、40 高等学校端末、50 大学端末、21 ファイヤウォール、22 データベース／アプリケーションサーバ、23 ホスト。

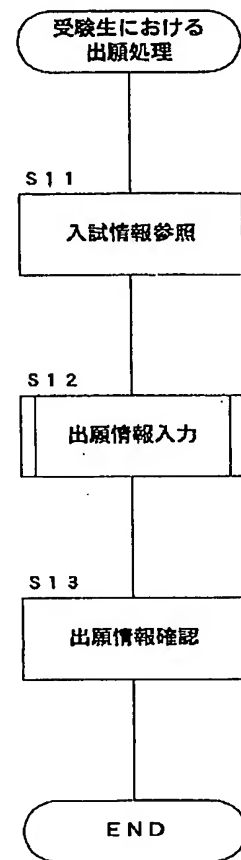
【図1】



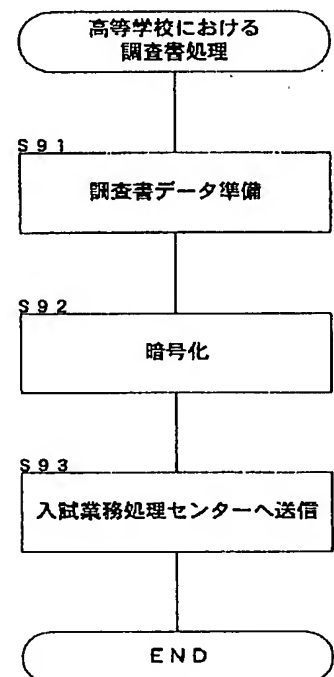
【図2】



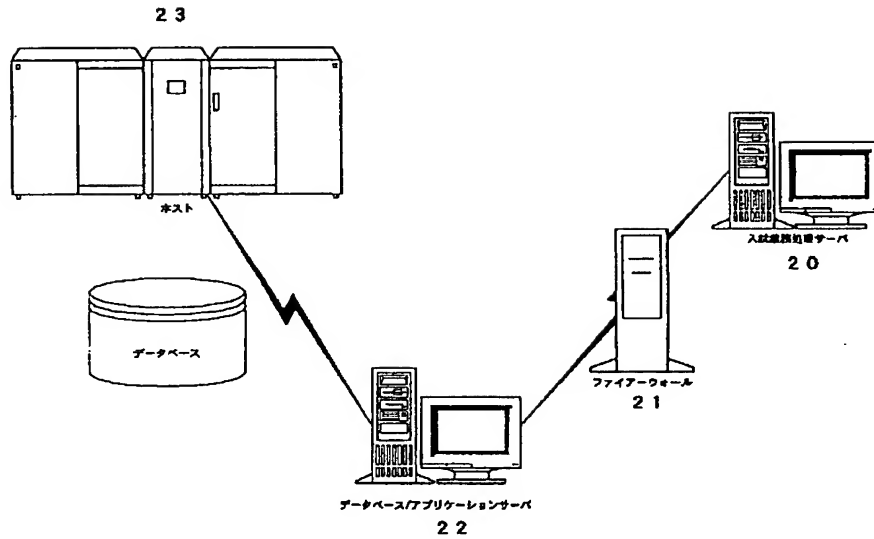
【図4】



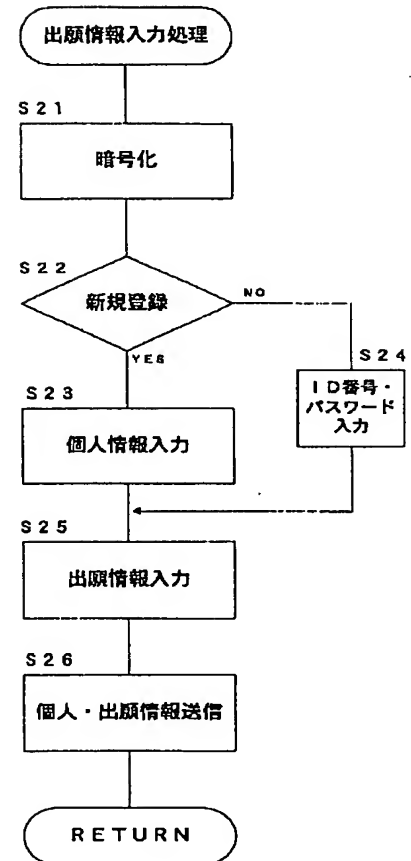
【図12】



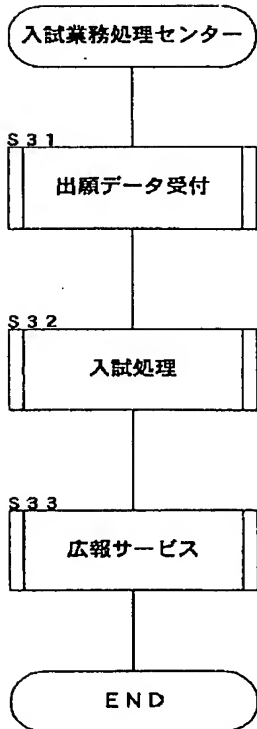
【図3】



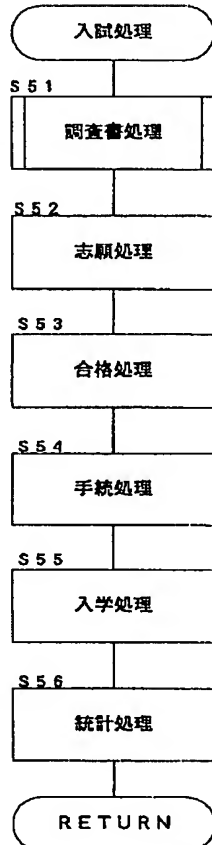
【図5】



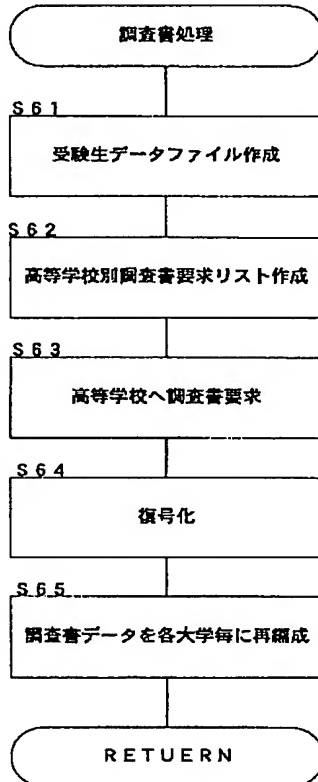
【図6】



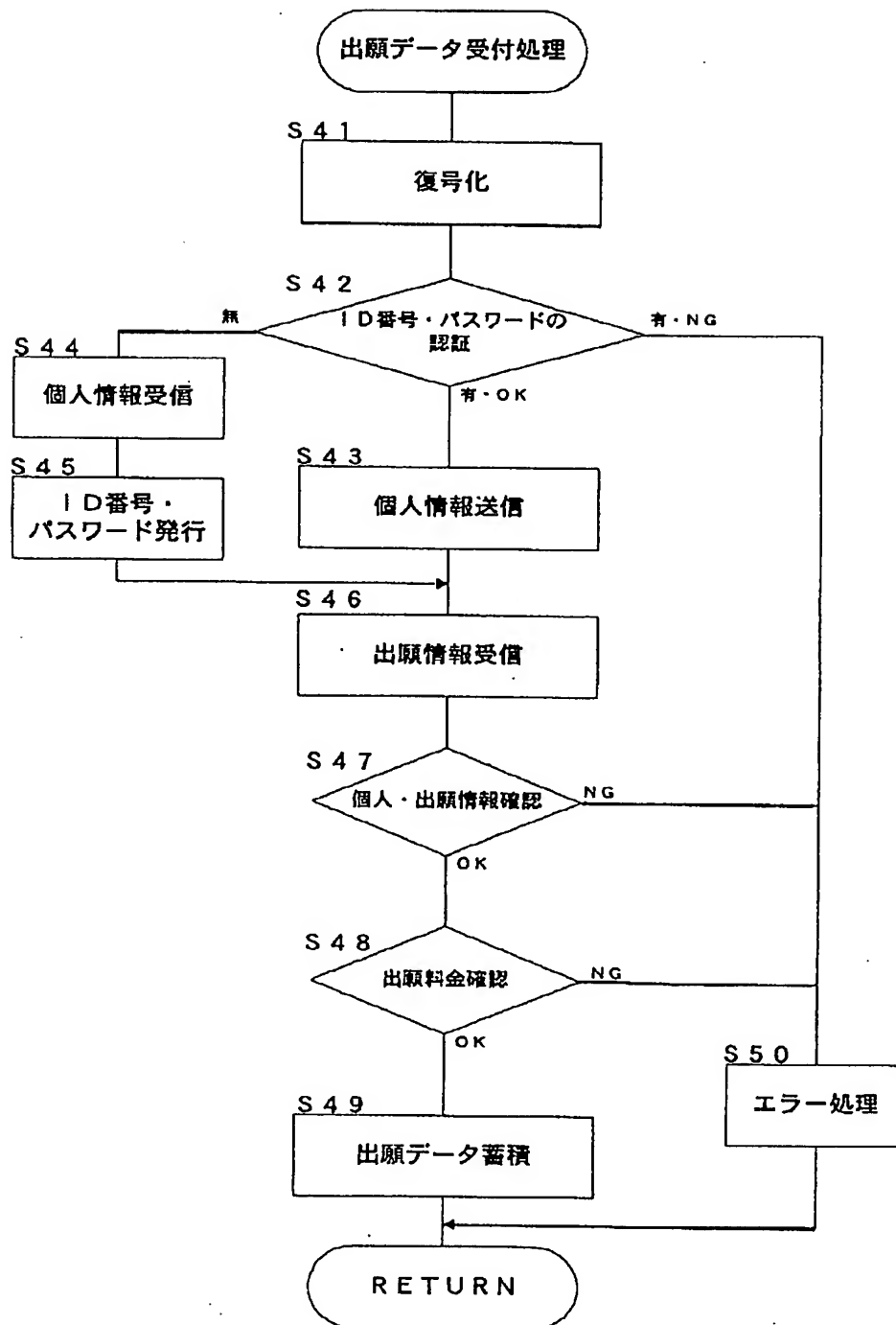
【図8】



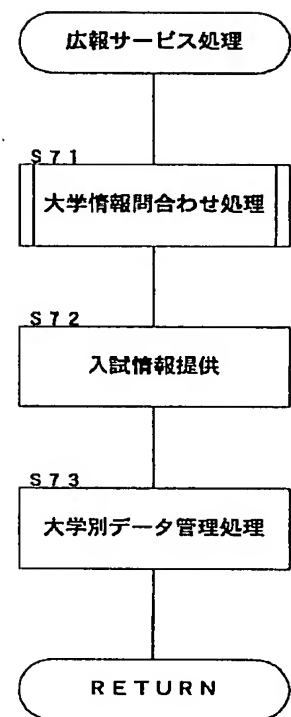
【図9】



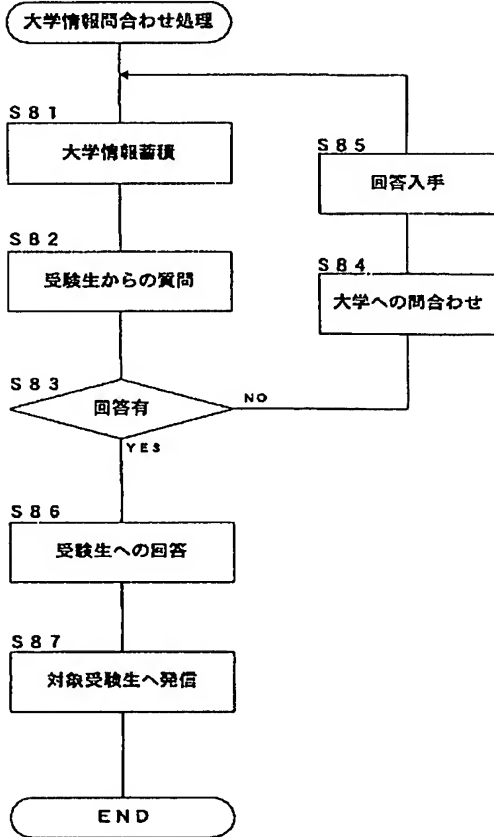
【図7】



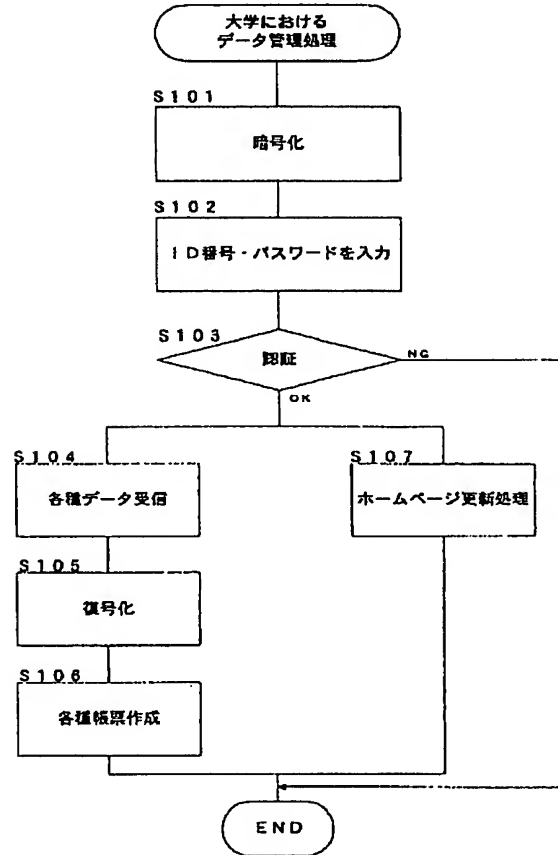
【図10】



【図11】



【図13】



The diagram illustrates the flow of information between various university-related systems. The flow starts from the bottom left (A) and moves through several screens (B, C, D, E) to the top right (F). Arrows indicate the direction of data flow. A large arrow on the right points upwards, labeled "次へ" (Next).

(A) インターネット 出版
大学入試広報
インターネット 出版
大学入試広報

(B) インターネット 出版
大学入試広報
大学入試広報

(C) 新規出版登録
新規出版登録
新規出版登録

(D) 登録
登録
登録

(E) 登録内容確認
登録内容確認
登録内容確認

(F) 大学校案
大学校案
大学校案

文庫へ

[illegible]

Fターム(参考) 5B049 AA01 AA06 BB00 BB21 BB49
CC36 EE02 GG04 GG07 GG10